

子供達は宝、私達の未来

●【社会の闇に光を当てて】

A君「学校から帰ってきたら、いつも僕一人。ご飯はいつも冷凍食品だけど、一週間に一回くらいはカップラーメン」。

B君「お母さんがお仕事で忙しい日は、コンビニでお弁当を買って食べるの。でもお母さんも一生懸命だから寂しくないの」。

健気に話すA君もB君も、見た目では判断できない心の中では受け止めきれない葛藤を抱いている子達です。皆さまは『**こども食堂**』って聞いたことがありますか？

『こども食堂』というのは、2012年頃に東京都内から始まったとされています。

経済的理由で十分食べられない子供に栄養バランスのとれた食事を提供する他、大人達と一緒に食べる機会が少ない子供達の、いわゆる「孤食（こしよく）」や「個食（こしよく）」を改善する為に創設された取り組みです。特に、しんどい状況にあるシングルマザーや、シングルファザー親子に向けて、美味しい食事、安心できる時間、地域との繋がりを安価や無料で提供するという試みが「こ

ども食堂」というものです。つまり、実家のような居場所を地域につくろうという取り組み、ということですね。現在では、300を超える有志団体や、地域のボランティア組織が全国各地で開催しています。

●【子供の貧困、6人に1人】

ご存じでしょうか？日本では、子供の6人に1人が貧困状態にあると言われています。その背景にあるのは、家庭の貧困であり、親達の貧困です。とりわけ1人親家庭の貧困率は五十割を超えており、深刻な状況となっています。

厚生労働省（厚労省）によると、平均的所得の半分未満で暮らす子供の割合は平成二十四（2012）年で16・3割と過去最悪を更新しました。これは、子供の6人に1人が貧困状態にある計算です。1人親世帯に限ると54・6割と更に深刻になります。**経済協力開発機構（OECD）**の調査でも、仮名34ヶ国の平均値を上回る水準で推移しているとのことですね。

文部科学省の調査では、経済的に困窮する家庭に自治体が学用品代などを補助する「**就学援助制度**」の支給対象となった小中学生の割合が、平成二十四年に15・6割で過去最高を更新しました。翌年にはやや減少したものの、経済的に苦しい家庭の子供が依然多いとみられます。家計は子供の食生活に

も直接影響します。厚労省の研究班が平成二十五年に小学生約9百人を対象に実施した調査では、標準的な所得の半分を下回る世帯の子供は「**家庭で野菜を食べる頻度、週3日以下と低い割合が一般世帯の2倍、インスタント麺や、カップラーメンを週1回以上食べる割合は2・7倍だった**」そうです。そもそも、どうして貧困に陥ってしまったのか？その原因は様々ですが、例えば家庭内暴力ⅡDV被害（ドメスティックバイオレンス）・不倫・病氣・失業・犯罪・障害児出産などによって離婚に至った親達の状況が引き金となるケースが多いと言えます。

●【子供達は宝、私達の未来】

地域社会は1つの大きな家族です。家族の中で誰一人孤立させたくはありません。繋がりを生む場所を作りたい。

- ・「子供が一人でも安心して過ごせる居場所」
- ・「お年寄りが子供達の愛くるしい姿に笑みがこぼれる空間」

《3世代同居が当たり前だった古き良き日本の家庭的な空気を味わってほしい！》。私の中で、こういう思いが溢れ出し、今年の1月から魚津市でも「（仮）こども食堂」をオープンさせました。場所は、特別養護老人ホーム『あんどの里』です。お年寄りが生活されている場所で、子供達と一緒に食

事をし、一緒に時間を共有し合うのです。施設長の大崎さんと、色々打ち合わせをしてスタートさせました。「無縁社会」なんて言わせませんよ。第1回開催（1月）では、2人の小学生が参加しました。一緒に昼食を摂って、子供達とお年寄り皆で一緒に遊び、最後はお菓子作り（どら焼き）をして、夕方親御さんをお迎えに來られて解散しました。老若男女が一堂に会し、一緒に食卓を囲んで皆でワイワイ美味しく昼食をいただきました。そして参加の子供達は、少し戸惑いながらも見事完食してくれました。「こども食堂」の料理は、栄養士さんが栄養満点に調理してくださった料理を皆でいただきます。**食事は生きるための基本**です。そもそも生きるためには食べなければいけません。それをちゃんと分かっているから、食べ残そうが、捨てようが一向に気づけるものではないのかもしれません。では、なぜ食事をするのでしょうか？**食事はエサではありません。食事は命をいただく事です**。そこに感謝の気持ちが生えなければ嘘だと思えます。何を食べてるかによって、その人間を作ります。野菜や、炊きたてのご飯を食べないで、ファーストフードや、インスタント物ばかり食べていて、情緒不安定にならないはずはありません。何度も言います。**食事**

はエサではありません。食事は私達が生きる為の命なのです。

●【時代の潮流に流されない】

育つ環境、出逢う人、出逢う書物、体験した出来事などによって、人生は彩られ、その人を作り上げます。SNSやインターネット時代を生きる私達にとって、家庭環境が整っていても、自分から「孤食・個食」の世界に身を置く人間もいるでしょう。インターネットの風景を眺めながら、自分が実際に行ったような感覚に陥っている人間もいると聞きます。経験したこともないのに、模倣して、満足してしまっている人もいますと聞きます。こんな残念なことはありません。五感（眼・耳・鼻・舌・体）をフル活動させる事で、私達は人間らしく生き得る事ができると思っています。

「つながり」から離れて散り散りになっている子供や大人の個々の時間が集まって繋がる『場』づくり。命は命によって支え合っています。地域の方々と共に見守り、共に学び、そして共に楽しめる『寺子屋』づくり。それが今回スタートさせた『（仮）こども食堂』への私の思いであり、これから目指す目標です。

また、こういう機会に子供にテーブルマナーを教え、どんな社会に

も自信を持って出て行ける切っ掛けづくりの1つになれば良いとも思っています。子供達が「育ち」「学び」の機会を十分に得て、それぞれが成長して社会へと巣立っていくためには、多くの人的・物的資源が必要になってきます。その資源の中でも最たるものは、社会の私達1人1人がお互いに優しい気持ちで相手に接していくことから始まるものだと思います。

しんどい生活を余儀なくされているご家庭の中には、ここに来たくても来れないシングルマザー（ファザー）、そしてその子供達の存在があることも十分に考えられます。それどころか、いまだ声も手も届かないシングルマザー（ファザー）の子供達がたくさん埋もれているはずで、必要な方々に目が行き届くようにシッカリと対処していきます。

この取り組みを息長く続ける為の課題は山積していますが、「心に寄り添い」ながら、今できること、考えられることを一つ一つ精一杯行っていくしたいと思います。

参加してくれた子供達が大人になって振り返った時に、孤食・個食で寂しかった思い出よりも、皆と一緒に時間を過ごせた「貴重な体験だった」という有意義な思い出になって、この幸せな時間を基盤にした、将来への可能性を信じていると思います。

とは言え、まだオープンしたばかり

で、手探り状態の部分も多々あります。より良い空間作りのために、皆さまから活動資金のご寄付や、沢山のアドバイスを頂けると幸いです。どうか叱咤激励していただき、今後とも宜しくお願いします。

最後に、第2回開催（2月）では、村椿市長ご夫妻も一緒にご参加下さり、「（仮）こども食堂」の現場をつぶさにご覧いただきました。第2回開催では4人の子供が集い、帰り際には一人の子供が、「毎日でもここに来たい」と嬉しそうな顔で言ってくれました。

子供達は宝、子供達は未来です。

子供達の笑顔のために、これからも邁進していきます

合掌 副住職 谷川寛敬

「実行力が 吸引力に」

私たちのリーダーは
本当に素晴らしい!!



タイトスケジュールの中
我らが村椿市長ご夫妻も
駆けつけてくださり
子供達の心に誠心誠意
寄り添われました



子供達のお菓子作り 🍪



気持ちのこもった
優しい味がしました 🍪



子供の
オセロ対決 🏆
なんと!
引き分け 😊!!

